

ESDGs通信195号 「ユネスコスクールとは何か」

昨日「広島大学附属小学校 学校教育研究会」様より「学校教育」誌冬号が届きました。同誌は大正3年に創刊され、110年続く理論と実践の総合教育誌だそうです。



実は昨年秋に、同誌より春号からのリレー連載ユネスコスクールの原稿として「ユネスコスクールとは何か」という題でご依頼を受け、執筆させていただきました。

ユネスコスクールは国内で1115校にまで増え、ESDの推進拠点として様々な取り組みが広がっています。先日開催されたユネスコスクール全国大会で、その充実ぶりもうれしく感じております。

しかし一方で、認定されてから時が経ち職員も入れ替わる中で、ユネスコスクールの意味や役割が十分には伝わっていない学校も徐々に増えてきているようにも感じられています。そこで、私自身の学び直しの意味も含めて執筆をお引き受けしておりました。

リレー連載

ユネスコスクール

ユネスコスクールとは何か



日本持続発展教育推進フォーラム
理事

手島 利夫

校のことです。」と言われてきました。

文部科学省では、2005年の「国連ESDの10年」の開始以来、ユネスコスクールを「持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点」と位置づけ、加盟校増加に取り組むとともに、世界的な学校間ネットワークを活用した交流、好事例の共有、教員の知見の共有など、活動の質の向上に努めてきました。2023年3月現在、世界182か国12000校以上が加盟し、日本ではその約1割の1115校が承認されています。

しかし現実には、ESDの推進をしようにも、「学習指導要領」に示されていないから取り組みません。「ESDはユネスコスクールが取り組めばいいのでしよう。」などと言われ続けていました。そのような中でもESDの推進拠点として、教科等を横断的にとらえた「ESDカレンダー」の普及や、「主体的・問題解決的な学習過程」「ホールスクール・アプローチ」「SDGs実践計画表」等の開発・発信・普及・交流や相互評価などを通じてESDの研究や開発と教育の充実に取り組んできました。

SDGsを実現するためのESD

そのような間にも、世界はグローバル化の中で激変を

教育改革の推進拠点です

ユネスコスクールとは、「ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面に位置付け、『人の心の中に平和のとりでを築くこと』を目指す世界的な学校ネットワーク加盟

続け、様々な課題が人類の未来を危うくしています。私たちの生存をかけて2030年までに何としてもSDGsを達成しなくてはなりません。2019年の国際連合総会では「ESD For 2030」が承認され、SDGsの実現には「ESDによる質の高い教育」が重要な役割を果たすことが明確化されました。

ESDが学習指導要領の基本理念となる

そのような中、我が国では2017年3月に学習指導要領が告示され、その前文に「一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。」と示されました。

これにより、日本中の幼稚園から高等学校までが、特別支援学校も含めて、ESDの実現に向けた教育課程を編成し、組織的・計画的に取り組むべきことが明確に示

されました。いよいよ2020年度の4月から、小学校から順次全面実施されることとなり、ユネスコスクールがその総力を発揮する時が来ていたのです。

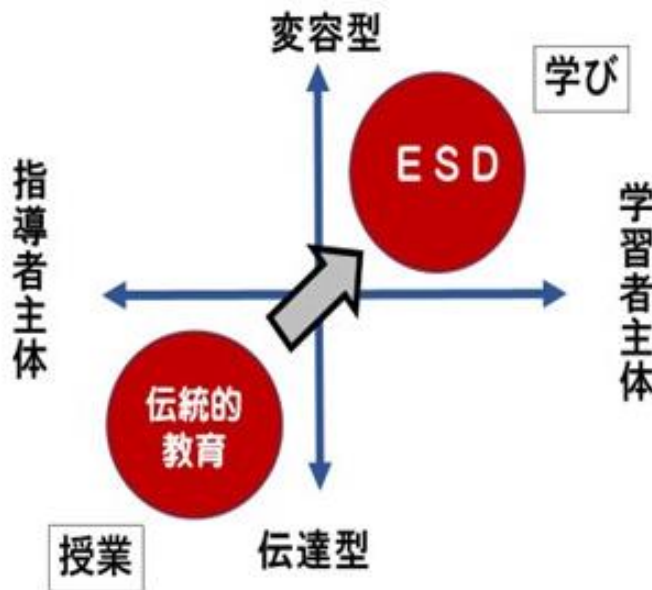
しかし、その3月末に新型コロナウイルスのパンデミックが始まり、社会全体の大混乱の中で各教育委員会は、その対応に追われ、2023年度になって回復してきました。

ユネスコスクールの新たな展開

ESDが国内すべての学校で取り込まれるようになり、世界的にもSDGs推進の要となる中で、ユネスコスクールにもこれらに伝える展開が求められ、これまで以上に他校のモデルとなる実践と共有が期待されます。活動の活性化に向けた支援の強化やメンバーシップ期間の導入と更新のための定期的なレビューも実施されます。また新規加盟申請国内審査を終え、ユネスコ本部に申請（又は申請を行う段階にある）期間中にキャンディデート校として国内ネットワークへの加入と活動への参加も認められます。

ユネスコスクールであることだけに満足することなく、その意義や役割について再認識し、各校が日本の代表校として世界に自校の教育の姿を示してほしいものです。

SDGsの時代の教育



SDGs時代の教育、ESDの姿

従来の教育では、教師が中心になって知識・技能を効率よく伝達するための「授業」が行われてきました。ESDでは、子ども（学習者）が自分で問題に気づき、それに対して自分から、調べ、考え、判断し、表現し、自ら変わっていく「深い学び」をすることが重要です。

B.Jickling & A.Waks, 2008 をもとに、聖心女子大学の永田佳之教授が作成したものを手島が編集

江東区立八名川小学校では、SDGsの発表直後から、従来ESDとして開発し実践してきた単元名や学年名をSDGsの書棚に並べるように整理し、SDGs実践計画表にまとめ、全校で取り組み始めました。



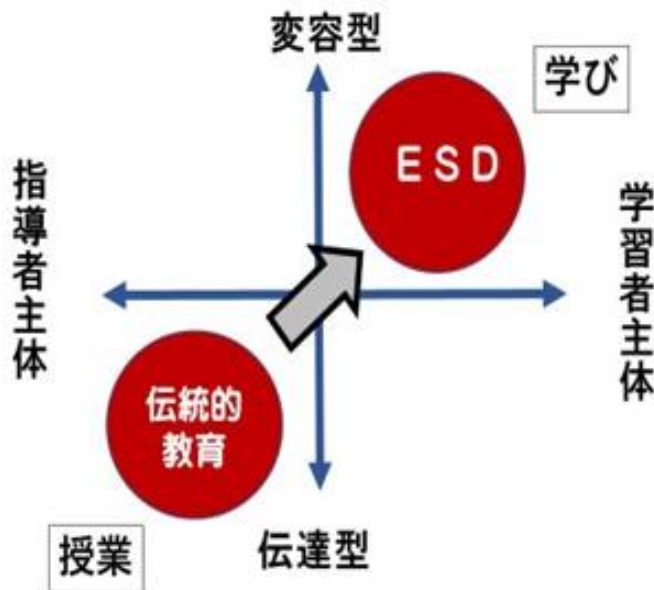
SDGs実践計画表

江

学習指導要領の改訂を視野に 目標 4 質の高い教育を全ての人に		4	ESD		主体的・問題解決的・総合的・対話的・協働的・創造的
環境			人権		
2	目標 2 飢餓をゼロにする 3年 食べ物から見える世界、 6年 これからの食料生産とわたしたち。	6	目標 6 安全な上下水の保障 4年 水を守れアースレンジャー	1	目標 1 貧困をなくす 3年 食べ物から見える世界、 5年 これからの食料生産とわたしたち。
7	目標 7 エネルギーをみんなにクリーンに 2年 うごくく、わたしのあもちゅ 6年 カーボンマイナス子どもアクション	9	目標 9 産業と技術革新の基盤づくり 6年 エコプロダクト展参加 5年 環境の視点で工業を見直そう	3	目標 3 健康と福祉 4年 やさしいパワーアップ大作戦(車いすバスケット、介護体験等)、 大きくなってきた私(2分の1・成人式)
11	目標 11 安全で災害に強いまちづくり 3年 地域安全マップをつくらう 5年 今やろう、地震への備え	12	目標 12 持続可能な生産と消費 4年 ごみと私たちの暮らし 5年 これからの食料生産とわたしたち	5	目標 5 ジェンダー平等の実現 2年 あんたへじゃっぴ 4年 心の信号機、手と心で読む。
13	目標 13 気候変動に具体的な対策を	15	目標 15 陸の豊かさを保ち増進させる	8	目標 8 働きがい、経済成長、人間関係、社会

江東区立八名川小学校では、SDGs17の項目を環境・人権・多文化理解に分類し、そこに総合や生活で取りを進組んでいる単元名や学年を入れて実践計画としました。(2016年度の校内研究紀要・部分)

SDGsの時代の教育



SDGs時代の教育、ESDの姿

従来の教育では、教師が中心になって知識・技能を効率よく伝達するための「授業」が行われてきました。ESDでは、子ども（学習者）が自分で問題に気づき、それに対して自分から、調べ、考え、判断し、表現し、自ら変わっていく「深い学び」をすることが重要です。

B.Jickling & A.Waks, 2008 をもとに、聖心女子大学の永田佳之教授が作成したものを手島が編集

江東区立八名川小学校では、SDGsの発表直後から、従来ESDとして開発し実践してきた単元名や学年名をSDGsの書棚に並べるように整理し、SDGs実践計画表にまとめ、全校で取り組み始めました。



SDGs実践計画表

江

学習指導要領の改訂を視野に 目標 4 質の高い教育を全ての人に		4	ESD		主体的・問題解決的・総合的・対話的・協働的学び
環境		人権			
2	目標 2 飢餓をゼロにする 3年 食べ物から見える世界、 6年 これからの食料生産とわたしたち。	6	目標 6 安全な上下水の保障 4年 水を守れアースレンジャー	1	目標 1 貧困をなくす 3年 食べ物から見える世界、 5年 これからの食料生産とわたしたち。
7	目標 7 エネルギーをみんなに クリーンに 2年 うごくく、わたしのおもちゃ 6年 カーボンマイナス子どもアクション	9	目標 9 産業と技術革新の 基盤づくり 6年 エコプロダクト展参加 5年 環境の視点で工業を見直そう	3	目標 3 健康と福祉 4年 やさしいパワーアップ大作戦(車いすバスケット、介護体験等)、 大きくなってきた私(2分の1・成人式)
11	目標 11 安全で災害に強い まちづくり 3年 地域安全マップをつくらう 5年 今やろう、地震への備え	12	目標 12 持続可能な生産 と消費 4年 ごみと私たちの暮らし 5年 これからの食料生産とわたしたち	5	目標 5 ジェンダー平等の実現 2年 あんたヘジャップ 4年 心の信号機、手と心で読む。
13	目標 13 気候変動に 適応する	15	目標 15 陸の豊かさを 守る	8	目標 8 働きがい、人間らしい仕事

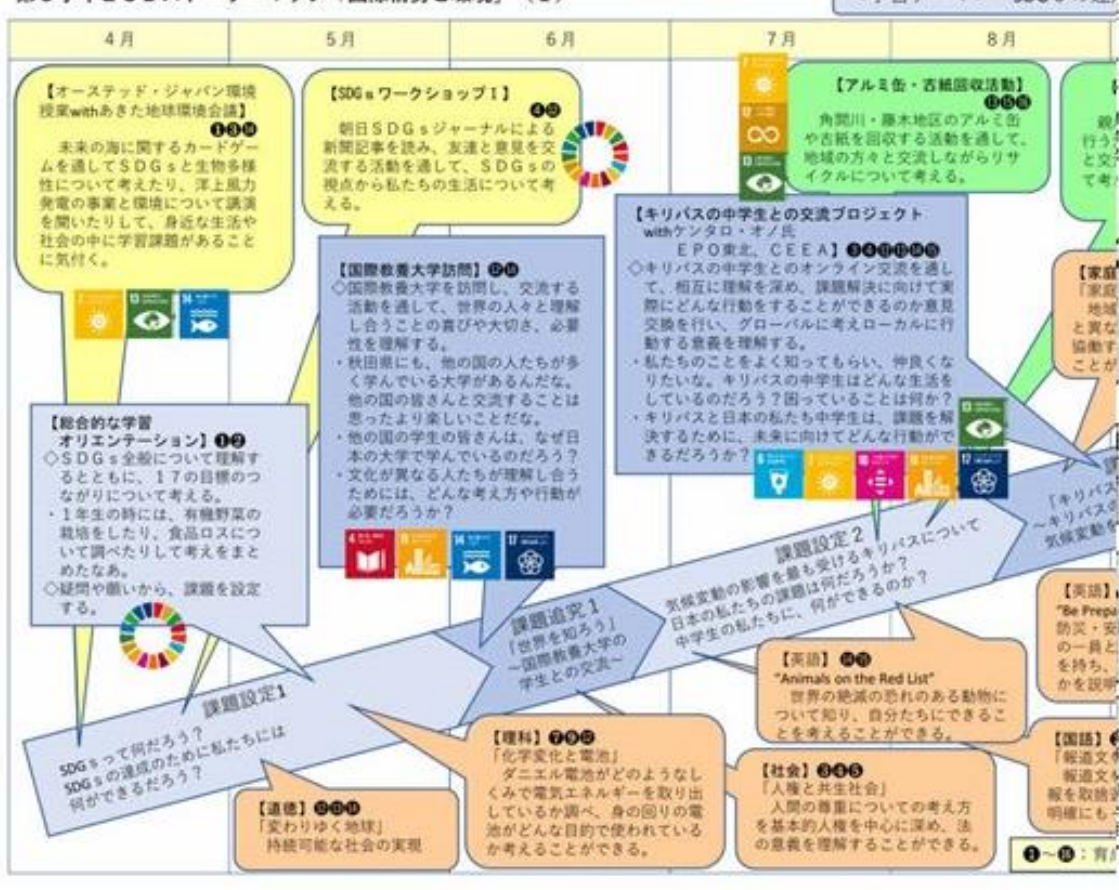
江東区立八名川小学校では、SDGs17の項目を環境・人権・多文化理解に分類し、そこに総合や生活で取りを進組んでいる単元名や学年を入れて実践計画としました。(2016年度の校内研究紀要・部分)

それまで開発してきた貴重な実践をSDGsの各目標と照らし合わせることによって、17の項目の全てについて、6年間の小学校生活の中で、主体的・対話的な指導計画の下に、学ぶことができるようにしました。これもホールスクール・アプローチの一例なのです。

ESDを進化させ、日本と世界を変えていく

2006年の春に、江東区立東雲小学校で開発されたESDカレンダーは、国際理解教育学会大会やユネスコスクール全国大会、ESD世界大会等を通じて、教科等横断的な指導計画として広く普及し、進化・発展してきました。秋田県のユネスコスクール、大仙市立大曲南中学校の島田智校長先生からはESDストーリーマップのご紹介をいただきました。(下段資料参照) 同校のホームページ、トップページのESDストーリーマップからご覧いただけます。総合的な学習の時間を中心に年間で展開されるストーリーの中に、教科等横断的なつながりや、人とのつながりが見事に配置されています。ESDカレンダーが素晴らしく進化を遂げている様子に驚きます。ユネスコスクールは仲間として互いに学び合い、教育実践とその普及を通じ日本と世界を変えていくのです。

第3学年ESDストーリーマップ「国際情勢と環境」(1)



【参考】ESDGs通信：手島利夫が名刺交換させていただいた方に配信している不定期なメルマガで、文科・環境・外務など関係省庁、大学・研究機関、教育行政、教員、政治家、企業等々一般の方々も含め約1900名様に配信中です。contact@esdtejima.com にメールでご連絡いただければ、登録・及び削除、送信アドレスの変更等をいたします。今後ともよろしく願いいたします。